

分野	専門分野II	科目番号	単位数	2単位																
科目名	成人看護学実習 II	授業形態	時間数	90時間																
担当教員	科目責任者:渡辺洋子	開講時期	曜日・時限																	
授業の目的	目的 成人期にある対象を発達段階や健康段階の特徴をふまえ統合的に理解し、QOLに視点をあて、身体の様々な機能障害に応じた看護を科学的かつ創造的に実践できる能力を養う。																			
授業の目標	<p>実習要綱1~8準ずる 目標</p> <p>1. 成人各期の発達の特徴と課題をふまえ、対象および家族を統合的に理解できる。 2. 最適な健康レベルに応じた看護上の問題を捉え、問題解決に向けての適切な援助が安全・安楽に実践できる。</p> <p>急性期の看護</p> <p>1) 急激な健康レベルの低下をきたした状態にある対象を理解し、問題が抽出できる。 2) 対象の主要疾患、症状、治療、経過を踏まえ、科学的根拠に基づいて看護が展開できる。 3) 周手術期の対象を受け持ち、生命の安全と苦痛緩和のための援助が実践できる。 4) 保健医療の動向をとらえ、対象と家族が活用できる社会資源について導き出すことができる。</p>																			
授業の内容と方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>学習課題</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 1. 実習オリエンテーション(実習前、学内にて) 1) 成人看護学実習 I ~ II の目的・目標 2) 実習配置および実習施設・実習指導者の紹介 3) 実習日程 4) 具体的な方法および注意点 5) 実習前学習課題提示 6) 実習態度および施設使用時の注意点 </td> <td>高木病院 病棟、手術室、 ICUでの実習</td> <td>実習に関する 学習と実習記録</td> <td>渡辺</td> </tr> <tr> <td> 2. 実習実施 1) 対象の理解 手術の特徴と対象に与える影響をふまえた周手術期にある 対象の理解。 急激な健康レベルの低下をきたした対象の理解。 2) 看護過程の展開 周手術期にある対象の術前・術中・術後の安全安楽な 援助を行う。 3) 看護計画、評価のまとめの発表 4) 患者要約および実習の反省・まとめ </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 3. 実習のまとめ(実習終了後、学内にて) 1) 個人の振り返り 2) 健康レベルに沿ったまとめ </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【終了後レポート】 指定された看護記録をもって評価する。</p>				授業内容	授業方法	学習課題	担当	1. 実習オリエンテーション(実習前、学内にて) 1) 成人看護学実習 I ~ II の目的・目標 2) 実習配置および実習施設・実習指導者の紹介 3) 実習日程 4) 具体的な方法および注意点 5) 実習前学習課題提示 6) 実習態度および施設使用時の注意点	高木病院 病棟、手術室、 ICUでの実習	実習に関する 学習と実習記録	渡辺	2. 実習実施 1) 対象の理解 手術の特徴と対象に与える影響をふまえた周手術期にある 対象の理解。 急激な健康レベルの低下をきたした対象の理解。 2) 看護過程の展開 周手術期にある対象の術前・術中・術後の安全安楽な 援助を行う。 3) 看護計画、評価のまとめの発表 4) 患者要約および実習の反省・まとめ				3. 実習のまとめ(実習終了後、学内にて) 1) 個人の振り返り 2) 健康レベルに沿ったまとめ			
授業内容	授業方法	学習課題	担当																	
1. 実習オリエンテーション(実習前、学内にて) 1) 成人看護学実習 I ~ II の目的・目標 2) 実習配置および実習施設・実習指導者の紹介 3) 実習日程 4) 具体的な方法および注意点 5) 実習前学習課題提示 6) 実習態度および施設使用時の注意点	高木病院 病棟、手術室、 ICUでの実習	実習に関する 学習と実習記録	渡辺																	
2. 実習実施 1) 対象の理解 手術の特徴と対象に与える影響をふまえた周手術期にある 対象の理解。 急激な健康レベルの低下をきたした対象の理解。 2) 看護過程の展開 周手術期にある対象の術前・術中・術後の安全安楽な 援助を行う。 3) 看護計画、評価のまとめの発表 4) 患者要約および実習の反省・まとめ																				
3. 実習のまとめ(実習終了後、学内にて) 1) 個人の振り返り 2) 健康レベルに沿ったまとめ																				
評価方法	実習評価表に沿った点数 実習への参加状況(態度、身だしなみなど)																			
テキスト	成人看護学に関するテキスト全般 系統看護学講座 別巻 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 看護技術関連のテキストおよびサブテキスト全般																			
参考図書・参考文献など	必要時提示する。																			
備考																				

分 野	専門分野Ⅱ		科目番号		単位数	1						
科目名	老年看護学方法論Ⅲ		授業形態	講義・演習	時間数	30						
	開講時期	3年次4・5月	曜日・時限	不定期								
担当教員	前島 文子	実務経験	前島:34年1月									
授業の目的	目的 老年看護学の看護過程と日常生活の援助が理解できる。											
授業の目標	目標 1. 老年看護学の看護過程技術が理解できる。 2. 施設における老年看護のあり方が理解できる。 3. 老年看護学実習の概要が理解できる。 4. 生活機能を支える看護について理解できる。											
授業の内容と方法	回	授 業 内 容		授業方法	学習課題	担当						
	1	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	講義／演習		前島						
	2	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	講義／演習		前島						
	3	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	発表		前島						
	4	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	講義／演習		前島						
	5	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	講義／演習		前島						
	6	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	発表		前島						
	7	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	講義／演習		前島						
	8	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	講義／演習		前島						
	9	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	発表		前島						
	10	老年看護学の看護過程の展開	事例展開	発表		前島						
	11	老年看護学の実践①		学内実習・発表		前島						
	12	老年看護学の実践②		学内実習・発表		前島						
	13	老年看護学の実践③		学内実習・発表		前島						
	14	老年看護学の実践④		学内実習・発表		前島						
	15	まとめ		講義		前島						
【終了後レポート】												
評価方法	レポート、試験、受講態度											
テキスト	看護悪テキストNICE 老年看護学概論 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研											
参考図書・参考文献など	関連する図書として、解剖生理学											
備 考												

分 野	専門分野Ⅱ	科目番号		単位数	1.5単位			
科目名	老年看護学実習 I	授業形態	臨地実習	時間数	60時間			
		開講時期	3年通年	曜日・時限	月～金			
担当教員	前島 文子 他 *科目責任:前島 文子	実務経験	前島:33年1月					
授業の目的	<p>目的 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と生活の場を知り、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状を理解する。</p>							
授業の目標	<p>目標 1. 老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を知り、老年期の発達課題が理解できる。 2. 老年期にある対象の特徴をふまえ、活性化に向けた日常生活の援助ができる。 3. 老年期にある対象の人格を尊重した援助ができる。 4. 加齢に伴う変化が日常生活においてどのような障害をきたしているか理解できる。 5. 高齢社会における保健医療福祉システムについて考えることができる。 6. 施設の概要を理解し、老年期にある対象がおかかれている現状を把握し、看護の役割について理解できる。</p>							
授業の内容 と 方法	<p>授 業 内 容</p> <p>1週間</p> <p>介護老人保健施設での実習を1週間(30時間) 利用者を一人担当し、コミュニケーションや必要な援助を行いながら、加齢に伴う高齢者の身体的・生理的・心理的な変化の理解を深める 介護老人保健施設:水郷苑</p>		授業方法	学習課題	担当			
	<p>1週間</p> <p>介護老人福祉施設での実習を1週間行う 利用者を一人担当し、コミュニケーションや必要な援助を行いながら、加齢に伴う高齢者の身体的・生理的・心理的な変化の理解を深める 介護老人福祉施設:木もれ日苑</p>		実習要項参照	前島 他				
	<p>【終了後レポート】 指定された実習記録の提出</p>							
評価方法	実習目標の到達状況及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価							
テキスト								
参考図書・参考文献など	必要時、指示							
備 考								

分 野	専門分野Ⅱ	科目番号		単位数	2.5単位			
科目名	老年看護学実習Ⅱ	授業形態	臨地実習	時間数	120時間			
		開講時期	3年通年	曜日・時限	月～金			
担当教員	前島 文子 他 *科目責任:前島 文子	実務経験	前島:33年1月					
授業の目的	<p>目的 高齢者に起こりやすい健康障害と関連する諸問題について理解し、人格を尊重した看護が展開できる基礎的技術を習得する。</p>							
授業の目標	<p>目標 1. 老年期にある対象の老化と健康障害の関連が理解できる。 2. 老年期の健康障害の特徴を理解し、健康上の問題について総合的に把握できる。 3. 老年期にある対象の生きていた過程、日常生活行動・健康状況を理解し、生活背景・生活習慣との関連から健康の維持・増進、健康障害の予防のための援助ができる。 4. 診断・治療が老年者の生体に及ぼす影響をふまえ、対象への基本的看護を理解する。 5. 看護の実践を通して、対象に与える影響について考えることができる。 6. 人生の終末期にある対象のQOLを高めるための援助ができる。 7. 家族援助の必要性を理解し、老年者のサポートシステムを考えることができる。 8. 老年期にある対象の生きてきた過程や価値観を理解し尊重した態度で接することができる。</p>							
授業の内容と方法	<p>授 業 内 容</p> <p>4週間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院に入院されている高齢患者を一人受持ち、看護過程を展開する ・アセスメントに必要な情報収集と情報の整理を行う。 ・対象を全人的にとらえてアセスメントし、看護問題が抽出する。 ・対象の疾病と老化、生活習慣との関連性を考える。 ・疾病が対象の生理機能に及ぼす影響を考えながら、受持ち患者の症状への看護を計画する。 ・受持った患者が受けている検査・治療・処置などについて、必要な看護の提供を行う。 ・受持った患者の残存機能の評価をして、その機能を最大限に生かした援助を工夫し、実践する。 ・人生の終末期であることを考慮した、ケアのあり方を考えながら実習する。 ・高齢患者を支える家族への援助について理解を深める ・継続看護と関連部門・職種との連携の必要性の理解を深める ・その人らしい生活が送れるような援助を考えて実践する。 ・老化に伴う変化(難聴、言語障害、理解力低下、視力低下)をふまえた会話をとる <p>詳細の方法等は、実習要項参照</p> <p>実習施設:高木病院、柳川リハビリテーション病院</p>				担当 前島他、実習配置表によつて担当			
	<p>【終了後レポート】</p> <p>指定された実習記録の提出</p>							
評価方法	実習目標の到達状況及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価							
テキスト	看護学テキストNICE 老年看護学概論 南江堂 生活機能から見た老年看護過程 医学書院							
参考図書・参考文献など	必要時、指示							
備 考								

分 野	専門分野Ⅱ		科目番号		単位数	1単位			
科目名	小児看護学方法論Ⅲ		授業形態	講義・演習	時間数	30時間			
担当教員	木戸 信子	実務経験	開講時期	3年次・前期	曜日・時限	不定期			
授業の目的	木戸:34年3月								
授業の目標	<p>目的</p> <p>小児各期の発達段階の特徴及び小児期に起こりやすい疾病や症状の基礎知識をふまえて、子どもの発達段階及び健康障害に応じた看護過程の展開を通して、小児と家族への看護実践について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各発達段階にある小児の健康障害及び経過に応じた看護過程の展開ができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護における看護過程の展開について理解する 2) 乳児期にある小児の看護過程の展開 3) 幼児期にある小児の看護過程の展開 4) 学童期にある小児の看護過程の展開 5) 思春期にある小児の看護過程の展開 2. 小児看護の実践において必要な遊びの援助ができる 								
授業の内容 と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当				
	1	小児看護実践に必要な配慮及び看護過程について	講義・GW 進行状況によつて、授業内容を調整する	グループで保育園実習でのレクリエーション企画書を作成する グループでの事例展開 実習目標の作成	木戸				
	2	小児看護における遊びの援助の重要性							
	3	事例による看護過程の展開—乳児期							
	4	事例による看護過程の展開—乳児期							
	5	事例による看護過程の展開—幼児期							
	6	事例による看護過程の展開—幼児期							
	7	事例による看護過程の展開—幼児期							
	8	事例による看護過程の展開—学童期							
	9	事例による看護過程の展開—学童期							
	10	事例による看護過程の展開—思春期							
	11	事例による看護過程の展開—思春期							
	12	保育園実習および小児病棟実習での小児への援助方法について							
	13	障がい児センター入所中の小児への援助方法について							
	14	事例による看護実践の検討(プレパレーションの実践)							
	15	事例による看護実践の検討(プレパレーションの実践)							
評価方法	筆記試験60%、学習課題35%、授業態度5%をもつて総合的に評価する。								
テキスト	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学2 小児臨床看護各論					実習要項			
参考図書・参考文献など	写真でわかる小児看護技術 発達段階からみた小児看護過程 その他看護診断に関する文献								
備 考	4月からの集中講義となるため、欠席すると出席時間数不足とならないように各自注意すること。 ※ 小児看護学実習までに主な疾患に関するレポート課題を本科目講義中に提示するので、計画的に取り組むこと								

分野	専門分野Ⅱ	科目番号		単位数	2単位		
科目名	小児看護学実習	授業形態	臨地実習	時間数	90時間		
		開講時期	3年次通年	曜日・時限	月～金		
担当教員	木戸信子 他 科目責任:木戸信子	実務経験	木戸:34年3月				
授業の目的	<p>目的</p> <p>小児各期の特徴を理解し、健やかな成長・発達への援助及び健康問題を持つ小児と家族に対する看護を実践できる基礎的能力を養う。</p>						
授業の目標	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の個別的な成長・発達を見守り、小児を一人の人として尊重する。 2. 小児の成長・発達の特徴を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 3. 小児の成長・発達段階、健康レベルに応じてコミュニケーションを図ることができる。 4. 小児の成長・発達段階、健康レベルに応じた日常生活への援助が安全・安楽に実践できる。 5. 健康問題を持つ小児と家族に対して、科学的根拠に基づいて看護が実践できる。 6. 実習グループで協力して、小児の成長・発達を促すレクリエーションを企画・実践できる。 7. 保育所・病院・障害児施設においての小児の健やかな成長・発達を促すための保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解できる。 8. 小児の健やかな成長・発達を促し、小児の最善の利益を守るために看護について考えることができる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容		学習課題	担当		
1週間	保育所(認定こども園)実習	① 保育所(認定こども園)の日課に沿って、行動する。 ② 日替わりで各クラスに1日ずつ配置し、発達段階の特徴を理解する。 ③ 各クラスの保育士に指導を受けながら子どもたちに関わる。 ④ 実習2日目にレクリエーションを実施する。		グループで園児を対象にしたレクリエーションを企画・実践	木戸 他		
	小児科病棟実習	① 病棟に入院している患児を受け持ち看護を展開する。 ② 小児科外来での看護の実際を見学(一部実施)する。		受持患児の事例検討	木戸 他		
	重症心身障害児(療育センター実習)	① 入所している児を受け持ち、日常生活の援助を行う。 ② 療育センターで生活する児と遊び、楽しむ。 ③ 児の細かい反応を観察し、その児に適した方法での援助を実践する。		グループで実習フロアの入所者を対象にしたレクリエーションを企画・実践	木戸 他		
評価方法	実習目標到達状況及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価する						
テキスト	系統看護学講座 専門 小児看護学1 小児看護学概論・小児看護総論 小児看護学2 小児臨床看護学各論						
参考図書・参考文献など	写真でわかる小児看護技術 写真でわかる重症心身障害児(者)のケア 発達段階からみた小児看護過程 その他小児疾患・看護診断に関する文献						
備考	1週間ずつ異なる施設での実習となるため、健康管理を十分に行い、欠席することのないように注意すること						

分野	専門分野Ⅱ		科目番号		単位数	1単位		
科目名	母性看護学方法論Ⅱ		授業形態	講義、演習	時間数	30時間		
			開講時期	3年次4・5月	曜日・時限	不定期		
担当教員	實松 順子	実務経験			23年			
授業の目的	目的:周産期の母子の健康状態をアセスメントし、個別的援助が出来る基礎的能力を養うとともに、対象に応じた援助 を理解する							
授業の目標	目標 ①学習した知識を基に、妊婦・産婦・褥婦・新生児のペーパーペイントによる看護過程の展開が理解できる。また、看護計画を立案することができる ②周産期における集団教育、個別教育に必要な知識を習得できる							
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	学習課題	担当		
	1	授業オリエンテーション 母性看護における看護過程①(ウェルネス看護診断の考え方)		講義	隨時課題提示	實松		
	2	事例による看護過程の展開① 妊娠期		講義・GW				
	3	事例による看護過程の展開② 妊娠期						
	4	事例による看護過程の展開③ 分娩期						
	5	事例による看護過程の展開④ 分娩期						
	6	事例による看護過程の展開⑤ 産褥期(経産分娩)						
	7	事例による看護過程の展開⑥ 産褥期(経産分娩)		シミュレーション				
	8	事例による看護過程の展開⑦ 産褥期(帝王切開)						
	9	事例による看護過程の展開⑧ 産褥期(帝王切開)		シミュレーション				
	10	事例による看護過程の展開⑨ 新生児期						
	11	母性看護における保健指導について		講義				
	12	集団保健指導案の計画		GW				
	13	集団保健指導案の実施①		発表				
	14	集団保健指導案の実施②		発表				
	15	実習オリエンテーション						
【授業の進め方】事例(妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期)の情報の整理、アセスメント、関連図を個人で行い、その後グループで看護計画の検討を行い実際の行動レベルまでの計画を立案し、授業の中で発表する								
評価方法	講義演習の参加、提出物、グループワークへの参加発表、定期試験により総合的に評価							
テキスト	系統看護学講座 母性看護学(1)母性看護学概論 医学書院							
	系統看護学講座 母性看護学(2)母性看護学各論 医学書院							
参考図書・参考文献など	パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護学実習ガイド 照林社							
	積極的にグループワークに取り組むこと。							

分 野	専門分野Ⅱ		科目番号		単位数	2単位				
科目名	母性看護学実習		授業形態	臨地実習	時間数	90時間				
			開講時期	3年次通年	曜日・時限	月～金				
担当教員	實松 順子	実務経験	23年							
授業の目的	目的:周産期における対象とその家族の健康上の課題を総合的に把握し、その解決に向けた看護を実践する基礎的能力を養う。									
授業の目標	<p>目標 ①周産期の対象とその家族の人権を尊重し、倫理的配慮ができる。</p> <p>②周産期の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。</p> <p>③生命誕生に対し、受容的・共感的态度をもって対象との人間関係を築くことが出来る。</p> <p>④妊娠・分娩・産褥および新生児期の対象とその家族に応じた援助を安全安楽に実施できる</p> <p>⑤妊・産・褥婦および新生児の対象とその家族に対して、看護を科学的根拠に基づいて過程的に展開できる。</p> <p>⑥妊娠・分娩・産褥各期の保健指導を理解し、実習グループで協力して集団保健指導を企画・実践できる。</p> <p>⑦地域社会における母子管理の実際を学び、母子保健医療チームにおける役割と社会資源の活用について理解できる。</p> <p>⑧母性・父性を取り巻く社会の変化に关心を持ち、主体的・創造的に学習し、研究的態度を身につける。</p>									
授業の内容 と方法	回	授 業 内 容		授業方法	学習課題	担当				
	1 週 間	1) 外来:妊娠各期の看護の実際を学ぶ 妊婦健康診査の実施、個別保健指導見学 妊婦への集団保健指導の企画・実施(デモ) 不妊治療を受ける対象の理解—こころのらくがき帳				實松				
	1 週 間	1) 病棟:産褥期の看護の実際を学ぶ 分娩各期の看護場面の見学、一部実施 褒婦の看護過程の展開(計画・実施・評価発表)、子宮復古や乳房の観察、看護場面の見学・実施 褒婦を受持ち、看護を展開する 対象がいない場合は、過去の事例を得て、展開する								
	1 週 間	1) 病棟:新生児の看護の実際を学ぶ 新生児の看護過程の展開(計画立案まで 発表不要) ドライテクニックおよび沐浴の実施 授乳や看護場面の見学・実施 新生児を受持ち、看護を展開する 対象がいない場合は、過去の事例を得て、展開する								
【実習の進め方】 グループ内で3つに分かれ、外来・産褥期・新生児期を1週間ずつローテーションする。 男子学生は必ず女子学生と組み、病床への訪室は必ず指導者または女子学生と共に行動する										
評価方法	実習目標到達状況及び実習態度等を実習評価表に沿って総合的に評価する									
テキスト	系統看護学講座 母性看護学(1)母性看護学概論 , 母性看護学(2)母性看護学各論									
参考図書・参考文献など	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護学実習ガイド 照林社									
備 考										

分 野	専門分野Ⅱ	科目番号		単位数	1			
科目名	精神看護学方法論Ⅱ	授業形態	講義・演習	時間数	30			
		開講時期	3年次前期	曜日・時限	不定期			
担当教員	田中 雅美 蒲原 雄也 越智 貴紀 入江幸春	実務経験	蒲原:21年8月					
学習目標	目的	精神障害のある患者との治療的関係成立ができる。 精神障害者的人権を守り、地域生活での生活を支えて行くための 施策を学ぶ。						
授業の目標	目標	1 精神看護における看護倫理について理解できる。 2 患者と看護師の関係成立のための効果的なコミュニケーション技法を習得する。 3 治療的人間関係の成立において場面の再構成による自己洞察の重要性とその方法が理解できる。 4 精神障害を持つ患者とその家族に対して、看護過程の展開を行うための基本的な考え方を理解できる。						
授業の内容 と方法	回	授業内容	授業方法	学習課題	担当			
	1	精神科看護師の役割と倫理	講義 DVD 演習	随時、指示する	田中			
	2	患者一看護師関係の関係成立①(バーチャル体験)						
	3	患者一看護師関係の関係成立②						
	4	精神看護の看護過程の基本的な考え方						
	5	看護過程の展開						
	6	看護過程の展開						
	7	看護過程の展開						
	8	看護過程の展開						
	9	看護過程の展開（発表）						
	10	看護過程の展開（発表）						
	11	精神看護における安全管理						
	12	精神看護学実習について						
	13	生活技能訓練(SST)と看護の実際	講義 オリエンテーション		蒲原			
	14	精神看護における訪問看護の実際						
	15	精神看護における救急看護の実際						
評価方法	課題の提出状況、筆記試験、授業参加・態度							
テキスト	精神看護の基礎、精神看護の展開(医学書院)							
参考図書・参考文献など	精神看護学実習と関連した講義内容であるため実習上							
備 考	精神看護学実習と関連した講義内容であるため実習要項を持参すること。							

分 野	専門分野Ⅱ	科目番号		単位数	2単位			
科目名	精神看護学実習	授業形態	臨地実習	時間数	90時間			
		開講時期	3年次通年	曜日・時限	月～金			
担当教員	田中雅美 他 科目責任:田中雅美	実務経験	田中:27年1月					
授業の目的	目的 精神的諸問題を持つ対象を総合的に理解し、対象と家族に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。							
授業の目標	目標 1 精神的諸問題を持つ対象及び家族の人権・価値観を尊重し、倫理的配慮ができる。 2 心の発達と心の健康の概念を基に、対象を総合的に理解できる。 3 自己理解を深め、対象に受容・共感的態度で接し、人間関係を築くことができる。 4 対象の健康な部分に眼を向け、心の健康回復のための援助を安全・安楽に実践できる。 5 精神的諸問題を持つ対象および、家族に応じて科学的根拠に基づいて看護が実践できる。 6 対象の治療効果を高めるために医療チームの一員として協働できる。 7 精神保健医療チームの一員として他職種の人々と連携し、社会復帰に向けた社会資源の活用について理解できる。 8 精神的諸問題を持つ対象および家族を取り巻く社会背景に关心を持ち、主体的・創造的に学習し、研究的態度を身につける。							
授業の内容 と方法	<p style="text-align: center;">授 業 内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 精神疾患を持つ患者を受持たせていただき、看護過程を展開する。 ※ 集団療法や作業療法、レクリエーション・ミーティングなどに参加し、精神疾患を持つ患者との関わり方 病棟オリエンテーションを受け、精神疾患を持つ対象への関わり方や基本姿勢を学ぶ。 看護師や医師、OTなどの対象への関わり方を見学 精神科病棟に入院している対象を受け持ち、コミュニケーションをとる。 対象が大切にしているもの(こと)を把握する プライバシーの保護と安全の確保について 傾聴・受容・共感的態度での接し方を学ぶ 対人関係において、自分の言動が相手に及ぼす影響がわかる。 対人関係における自己の傾向、接し方について分析できる。 受持った患者の健康な部分を引き出す関わりを学ぶ。 精神疾患を持つ患者の安全を確保するための施設、環境を説明できる。 精神科病棟における看護師の役割がわかる。精神保健福祉法におけるデイケアセンターの意義・役割についての理解を深める 精神医療の現状や障害者への差別・偏見のない社会づくりについて考える。 実習終了後、実習の成果の発表を行う。 <p>甲斐病院、のぞえ総合心療病院、筑水会病院のいずれかで3週間の実習 詳細は、実習要項を参照</p>				担当 田中他、実習配置により担当教員が指導に入る			
評価方法	実習目標到達状況及び実習態度等を実習評価表に沿って総合的に評価する							
テキスト	精神看護の基礎、精神看護の展開(医学書院)							
参考図書・文献など								
備 考								

分 野	統合分野	科目番号		単位数	1
科目名	在宅看護方法論III	授業形態	講義	時間数	15
担当教員	犬丸 小百合／椎葉 幸	開講時期	3年次前期	曜日・时限	不定期
授業の目的	目的				
授業の目標	<p>在宅看護に必要な知識・技術を統合させ、在宅で療養する人とその家族への援助の実際を理解し、看護過程の展開のプロセスを学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程の事例演習を通して、対象の特徴、保健・医療・福祉専門職チームが果たす役割と、看護の継続方法が理解できる。 2. 在宅看護過程の特徴及び個別性に応じた計画の立案、援助方法が理解できる。 3. 在宅看護における多職種連携と社会資源の活用方法について理解できる。 4. 演習を通して、具体的な援助が実施できる。 5. 演習を通して、訪問時の基本的態度が習得できる。 				
授業内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当
授業内容と方法	1	1. 在宅看護過程の展開 1)展開のポイント 2)展開方法	講義	※事例の疾患について事前学習して臨むこと	椎葉
	2~3	2. 事例展開 1)事例紹介 3. 事例展開 1)疾患学習①解剖生理 ②病態生理 ③症状・合併症・治療・検査・看護など 2)情報整理 3)アセスメント 4)看護計画立案	講義 演習 GW		椎葉
	4~6	5)実施・評価 発表準備	講義・演習		椎葉
	7	4.まとめの発表・振り返り	講義・GW		椎葉
	8	5.在宅看護論実習について 6.訪問看護倫理要綱	講義		犬丸/椎葉
評価方法	試験、受講態度、事例への取り組み、レポートなどを総合して評価する。				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				
参考図書・参考文献など	角田直枝:知識が身につく!実践できる!よくわかる在宅看護 改訂第3版, 学研, 2020 正野逸子・本田彰子:関連図で理解する 在宅看護過程, メディカルフレンド社, 2019 河野あゆみ:強みと弱みからみた在宅看護過程, 医学書院, 2018				
備 考					

分 野	統合分野	科目番号		単位数	0.7単位				
科目名	在宅看護論実習 I	授業形態	臨地実習	時間数	30時間				
		開講時期	3年次通年	曜日・时限	月～金				
担当教員	犬丸 小百合/椎葉幸								
授業の目的	目的								
授業の目標	<p>地域で生活する人々の健康上の問題を理解し、保健医療福祉活動の実際を知り、看護の果たす役割を認識した行動ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活している人々の発達段階や発達課題い応じた健康感、健康状態を理解できる。 2. 地域で生活している人々と円滑な人間関係を築くことができる。 3. 地域で生活している人々に対する保健活動の実際を学ぶ。 4. 地域保健活動を実施している行政機関の機能と役割が理解できる。 5. 地域保健福祉活動に関わる多様な職種の役割・機能を理解し調整的役割の重要性を学ぶ。 								
授業の内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当				
実習まで	実習まで	【実習オリエンテーション】	学 内	犬丸					
		1) 臨地実習について							
		2) 在宅看護論実習の位置づけ、目的・目標、方法							
		3) 実習についての学生心得							
		4) 実習記録について							
		5) カンファレンスについて							
		6) 週間予定表について							
		7) 通学方法・服装について							
実習1日目～5日目	実習1日目～5日目	※大川市役所・健康課によるORを市役所で受ける。	大川市役所 モッカランド 社会福祉協 議会など	教員が 実習配 置によ り指導 に入る					
		【実習の実際】							
		1) 実習1日目							
		施設オリエンテーション・当日より保健事業に参加							
		2) 実習1日目～5日目							
		保健事業に参加、終了時のカンファレンス							
		3) 実習5日目(最終日)							
		実習反省会(※実習を終えて)							
終了実習後	終了実習後	【実習のまとめ】	学内						
		1) 実習記録のまとめ・グループ討議							
		2) 実習の学びを発表し共有							
【終了後レポート】									
実習記録の提出									
評価方法	在宅看護論実習 I の実習評価表に基づき評価する。								
テキスト	系統別看護講座 統合 在宅看護論 医学書院								
参考図書・参考文献など	系統別看護講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院 系統別看護講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度[3] 社会福祉 医学書院								
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・実習までに事前学習を済ませておくこと ・自分が住んでいる地域について調べておくこと 								

分 野	統合分野	科目番号		単位数	1.3単位		
科目名	在宅看護論実習Ⅱ	授業形態	臨地実習	時間数	60時間		
		開講時期	3年次通年	曜日・时限	月～金		
担当教員	犬丸 小百合/椎葉 幸	実務経験	犬丸:29年1月				
授業の目的	目的 地域で療養する人々とその家族の生活上の問題を理解し、その人々が在宅で健康の維持・増進が図れるよう援助できる能力を養う。						
授業の目標	目標 1. 疾病・障害をもちながら、在宅で生活する人々とその家族を総合的に理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の健康上の問題が理解できる。 3. 在宅療養者とその家族との人間関係を良好に保つことが出来る。 4. 在宅療養者への日常生活の援助ができ、家族(介護者)への支援の方法が理解できる。 5. 地域における保健医療福祉サービスのあり方・社会資源の活用方法が理解できる。 6. 看護師と他の保健医療福祉チームメンバーとの連携の方法が理解できる。 7. 看護に関心を持ち探究心を持って行動できる。						
授業の内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当		
実習前OR	実習前OR	実習オリエンテーション	※アネロイド 血圧計・聴 診器は各自 で持参す る。	[臨地実習先] ・おおかわ訪問看護ステーショ ン ・やながわ訪問看護ステーショ ン ・高木病院デイケアセンター、 高邦会デイサービスセンター ・柳川リハビリテーション病院デ イケアセンター、有明デイサー ビスセンター	犬丸 椎葉		
		1)臨地実習について					
		2)在宅看護論実習Ⅱの位置づけ、目的・目標、 方法					
		3)実習についての学生心得					
		4)実習記録について					
		5)カンファレンスについて					
		6)週間予定表について					
		7)服装について					
		8)通学方法					
臨地実習	臨地実習	9)訪問かばん・体温計・手袋・酒精綿・貸し出し、 速乾性手指消毒薬準備(入れ物は個人で準備)					
		実習1日目	[臨地実習先] ・おおかわ訪問看護ステーショ ン ・やながわ訪問看護ステーショ ン ・高木病院デイケアセンター、 高邦会デイサービスセンター ・柳川リハビリテーション病院デ イケアセンター、有明デイサー ビスセンター	犬丸 椎葉			
		実習オリエンテーション・訪問看護					
		実習1週目～2週目					
		1)週間スケジュールに基づき訪問看護・訪問リハ ビリ・訪問					
		診療(大川のみ)・ケアマネージャーレクチャー ・デイサー ビス、デイケアの実習を行う。					
		2)毎日カンファレンスを行う。					
		3)実習反省会(最終日)					
		実習のまとめ					
評価方法	評価方法	1)実習記録のまとめ・グループ討議					
		2)実習の学びをグループ討議・発表会					
		※実習前にDVDvol1～4を視聴すること					
テキスト	在宅看護論Ⅱの実習評価表に基づき評価する。						
参考図書・参考文献など	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院、よくわかる在宅看護 学研 DVD:実践・訪問看護シリーズVol1～4 ビデオ:在宅看護論Vol2～4						
備 考	実習前までに、事前学習課題を済ませておくこと。						

分 野	統合分野		科目番号		単位数	1単位								
科目名	卒業研究		授業形態	講義・ゼミ	時間数	30時間								
			開講時期	3年次通年	曜日・時限	不定期								
担当教員	木戸 信子 他	実務経験	34年3か月											
授業の目的 授業の目標	目的 研究の基本的知識を基に、看護を多角的視点から深く考察し、質の高い看護を追究する能力を養う。 目標 1. 看護研究の意義が理解できる。 2. 研究のプロセスを踏まえ、研究論文を作成できる。 3. 研究活動を通して、自己の看護観を深めることができる。 4. 繼続的に学習する姿勢の必要性を認識する。													
授業の内容 と方法	回	授 業 内 容		授業方法	学習課題	担当								
12月12日 12月13日	1	ケーススタディの意義・ケーススタディの進め方		研究テーマに基づき、担当教員の指導を受けながら論文を作成する ゼミ方式による個人指導	研究テーマに基づき、担当教員の指導を受けながら論文を作成する ゼミ方式による個人指導	木戸 他教員								
	2	研究課題の決定 文献リサーチ・研究計画書												
	3	看護実践のリフレクション												
	4	文献検索及びクリティカルシンキング、論文作成												
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10													
	11	↓												
	12	ケーススタディまとめ・発表会の企画・準備												
	13	研究発表会(看護研究発表会6hと合わせて実施)												
	14													
	15	ケーススタディを終えての学びの共有、論文修正												
【終了後レポート】														
ケーススタディとしてまとめた論文														
評価方法	ケーススタディとしてまとめた論文及びその作成に至る取組み姿勢と発表力・発表会への参加度													
テキスト	楽しくできる分かりやすい看護研究論文の書き方 照林社													
参考図書・参考文献など														
備 考	医学中央雑誌及びメディカルオンラインを積極的に活用し、学習を深めること。ただし、その使用については、遵守事項を守ること。違反があった場合、罰せられることがあります。													

分 野	統合分野	科目番号		単位数	1単位			
科目名	統合実習	授業形態	臨地実習	時間数	30時間			
		開講時期	3年次後期	曜日・時限	月～金			
担当教員	七種彩子 他 *科目責任:七種彩子	実務経験						
授業の目的 授業の目標	<p>目的 既習の知識・技術・態度をふまえ、臨床実務に即したチーム医療、看護管理、医療安全を考慮した、看護実践能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門職業人としての倫理に基づき、対象を尊び、人権および価値観を尊重した行動ができる。 受持ち患者の看護計画の全体を把握した上で、複数の看護問題を解決できる。 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して、実践できる。 複数の対象と円滑な人間関係を築くために、受容的・共感的態度で接することができる。 病院における看護管理および、医療安全の実際を理解できる。 看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解できる。 夜間帯における看護業務、患者管理、看護実践など、看護の役割を学ぶ。 これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。 							
授業の内容 と方法	<p>授業内容</p> <p>[実習前]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションで実習目的と目標・実習方法を理解する。 プロフィールを作成することで、実習目標と自己の課題を明確にする。 <p>[実習方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護部長のオリエンテーションを受け、病院全体の管理等について理解する。 病棟オリエンテーションを受け、病棟の特徴・病棟の構造などを理解する。 複数の患者(3人)を受け持ち、優先順位をアセスメントし、援助を行う。 チームリーダーと行動を共にし、チームリーダーの実施内容を知る。また、チームリーダーの役割を理解すると共にチームメンバーの役割も理解する。 病棟長から説明を聞き、行動を共にし見学することで、看護管理の実際を理解する。 夜間帯の看護師業務と患者ケアを見学・一部実施し、夜間帯の看護の役割を理解する。 救急外来で救急患者への医療の実際を見学し、また、指導者より説明を受け、看護の役割を理解する。 実習を振り返り、看護師としての実践能力をアセスメントし、自己の課題とその方略を考える。 実習・講義での実習を振り返り、自己の看護観をまとめる。 							
評価方法	実習目標到達及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価する							
テキスト								
参考図書・参考文献など	実習要項を参考にし、複数患者の疾患や症状等については、自ら文献を用い学習すること							
備 考	*3週間のうち、1日を救急外来、2週目の1日を夜間実習が入るため、健康管理及び時間管理に留意すること。							